

2016 年新年懇親会

非正規労働者の増加に歯止めを 労ペン・稲葉代表が挨拶で強調

日本労働ペンクラブ（稲葉康生代表、197 人）は新春 7、東京・千代田区の日本プレスセンター で 2016 年定時総会と懇親会を開催した。このうち懇親会には労ペン会員、厚労省や労働 3 団体はじめ各界の招待者を含め 132 名が参加。拡大する非正規労働者の在り方や、今年の春闘、参院選に向けた政策課題などで意見交換、今後の労ペンクラブの活躍、健筆に大きな期待が寄せられた。

稲葉代表は主催者あいさつで、非正規労働者が増大し「不安定雇用の時代になった。この流れに歯止めをかけるべきだ」と問題提起した。

▽政策全体を通して判断を

来賓として招かれた厚労省・岡崎淳一審議官は、長時間労働の削減や非正規労働者の正社員転換の推進などの政策課題について触れ、

「近く非正規労働者問題でプランをまとめたい」とし、安倍内閣が進める「一億総活躍社会」では厚



労省の所管分野が多いとして「この 5、6 月ごろまでに数年間を見越した政策を作成し、しっかりと関わっていききたい」と述べた。また、労基法改正法案に対し規制緩和の一環とする見方があることに対し、有給休暇取得や割増賃金の格差是正、労働時間の正確な把握などを通し「働き方の見直し」につながる「労働市場政策全体をみて判断していただきたい」と要望した。



▽富の適正配分を

連合・神津里季生会長は、「頑張った人たちに富が適正に配分されることは、当たり前の話だ」とし、今春の「生活闘争」に全力を注ぎ、政治課題としては半年後の参院選を挙げ「国民の期待は、しっかりした（政権の）受け皿の存在だ。普通の国民意識が大きく前に進もうとし



ている。先頭に立って取り組む」と決意を表明した

労働団体からは全労連・小田川義和議長、全労協・金澤壽議長も招かれ、「労働者法制の改悪で権利の後退は許さない。今こそ過去のいきさつを横に置き協力を」（小田川議長）、「新しい国民運動が盛り上がっている。これからの10年を決める1年になる」（金澤議長）などと新しい労働、市民運動への期待を述べた。（麻生英明）